

信州大学附属図書館
No. 62

主な記事

千曲会再建の年	1頁
西年の年頭にあたって	2頁
新しい心がまえ	3頁
アジア協会蚕糸業委員会と ビルマの賠償に就いて	4頁
總會記事	5頁
研究論文抄録	9頁

千曲會報

1957年1月1日

昭和32年1月1日発行

長野県上田市常入

信州大学繊維学部内

編集兼発行人 小山長雄

信州大学繊維学部内

行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円

頌 1957年 春



千曲会再建の年

理事長 野口新太郎

年頭にあたり会員各位の御多幸を祝します。

千曲会は本年を会再建の年として従来の惰性から脱却し、再び潑刺として立上りたく強く念願する次第であります。

ここ数年間の總會にはいつも千曲会の不振沈滞が議論の中心となり、多数会員から現在の不甲斐なさを慷慨されたものでありますが、先般の總會にはさしてそのような声はありませんでした。これは最近本会に歴然たる立直りの兆が現れて来たからであります。

本会では一昨年全国支会の支援を得て同窓精神昂揚運動を展開し、本会再建に懸命の努力を注ぎ、又これに併行して本会の運営面にも大いに反省刷新を加えたのであります。幸会員各位の理解ある協力によりこの企ては遂に空しからずして其後本会盛り返ししの兆は各方面に現れ始めて来たのでありま

す。誠に欣快に堪えません。さればこの際、此趨勢を更に助長育成して、多年の懸案である会再建の大業をこの機を逸せず達成したく強くこい希う次第であります。

本会立直りの兆は最近各方面に窺われるのでありますが、今ここにその最も顕著な一例を挙げますなら、まず会費納入率の著しい向上であります。戦前から両三年前に至る10余年間の会費納入率は全会員数の15%から17%に過ぎなかつたのでありますが、昨年は30%、本年は更に伸びて35%に達するだろうと考えられます。従つて今までの本会の予算はいつも大体30万円程度で編成され、会の運営はこの貧弱な予算内で細々と取り行われていたのであります。しかし昨年来情勢は次第に改善され、去る總會には本年度追加予算さえ可決されて年間予算は59万円と更正されるに至り、更に又明年度分は会

費の値上げも加えて一挙30万円の予算が承認されるに至つたのであります。これを数年前の不振時代にくらべれば正に3倍以上の大飛躍であります。

以上は一例に過ぎませんが、これ等の数字は間違なく千曲会の立直りを示すものであります。されば全会員がこの機運の助長に協力するなら、本会再建の懸案も漸く成就されて、往年を凌ぐ潑刺たる千曲会の再現も程近しと感ずるのであります。

これがためには一層内容の刷新を図らねばならないことは当然であります。千曲会を往年の盛大さに戻す——然しその中身は断じて往年のまゝではならない。そこには必ず時代と共に進む清新な動きがなくてはならないと思ひます。早瀬の水はいつもきれいです、溜水は腐敗します。現在千曲会の最大の悩みは年齢の隔たりによる会員間のギャップ及び農から工に亘る職業上のギャップを如何に調和して行くかの問題であります。

これはなかなか面倒な問題ではあります、しかしこれとて役員も会員も共々によく本会の性格、目的を認識して行け

ばこれ等の問題も自然に解決の方向が見出されるのでわいかと考えるのであります。

千曲会の定款第1条には、本会は親睦を目的とする団体であると明記されてい、又第2条には此目的を達するためにはこれこれの事業をすと書いてあります。要するに千曲会は会員相互の親睦を厚くし、お互に切磋琢磨する会である訳であります。これを見れば千曲会は如何にあるべきか又重点事業は何処にあるか等は自ら明らかになるのであります。しかしこれ等の事が民主的に行われさえしたら彼の難問題も自然に解決されるものと信ずるのであります。

私は先般の總會に於て、会員各位の御推薦により再び本会理事長の重職を汚すことになりました。誠に身に余る光栄と存じます。元より生米の驚馬決してその器ではありませんが斯くなる上はこの重大時期各位の絶大なる御支援の下に、本会再建の大業と取組み、懸案達成に挺身する覚悟であります。何卒倍旧の御支援と御叱声を賜り度く念願してやみません。年頭の御挨拶方々一言所感を申し述べた次第であります。

酉年の年頭にあたつて

武 田 晃

鶏は我々日本人にとっては犬や猫と共に殊に他親しまれているが、その祖先も我々の祖先同様東南アジアだと云われている。即ちその地方に棲息する野鶏が約4千年程以前に飼い馴らされ、その後他の地方に広まつたと見られる。隣邦中国に於ては極めて古くより人工孵化の技術も知られ、3400年程も以前に既に鶏に関する文献があるが、ヨーロッパでは新石器時代の代表民族であるスイスの湖棲民、又古代エジプト人等多くの家畜を持つていたにもかかわらず鶏は飼われていなかったようである。原始人が野鶏を馴致した目的はその肉や卵を食糧とする事の他に、報農用として時刻を知る為、又斗鶏用として娯楽に供する為だと考えられているが、これ等の事は極く最近或は現在に於ても尙意義を有しており、食糧獲得の手段として発達した近代養鶏はもちろんの事、我が国に於ても1世紀前迄は、丑の刻(午前2時)に鳴くは1番鶏寅の刻(午前4時)に謡うは2番鶏として時計の代用を果していたし、又斗鶏競技は全世界に拡り公然と行われている国さえ相当にある現状である。暁を前に力強く朗々と響く雄鶏の声は原始人にとって危険な夜の魔を払う救世主の声とも聞えたのであります。その為、これが光や太陽を表象する思想を生み、宗教的な崇拜の対照となつた事も肯ける。我国に於ても肇国のはじめ天照大神が天の岩戸に隠れられ天の下常闇となつた時、8百万の神々は鶏の力をかりる事を思いつかれ、常世長鳴鶏は見事な美声で大神を岩戸の外にお誘い申し上げ無事に此の世に光が戻つたとの神話は余りにも有名である。この神話でも知られる様に我が国には古くより鶏が飼われ、爾米報農・斗鶏・愛玩用として又家畜を持たずその為畜産物の

利用もほとんどなかつた我が国に於て、その肉や卵は唯一の畜産食糧として食糧に供されたと見られる。觀賞・愛玩・斗鶏用の鶏の育成は極めて独特の進歩をみせ、今日世界に誇る珍貴な固有種が多数存在している。すなわち長鳴の鶏では高知の東天紅は音吐朗々声量豊かに20秒程も鳴き続け屢々元旦のラジオでも放送されており、此の外にも信越國境山嶽地の唐丸、秋田の声良は低い力強い声で15秒程も鳴く。長尾の鶏では高知の長尾鶏は尾羽だけは抜け換らず年々伸びて数年後には6米余にも及ぶ。小国・義良は前2種程ではないが相当の長鳴長尾性を持つている。此の外にも尾骨尾羽を欠いた鶏尾、又各種のチャボ、斗鶏種のシャモ、薩摩鶏等多種多様である。これ等多くの品種育成には鶏に対する愛着心と資質及び努力が必要で日本人はそれ等を具備している事を示すものであり、それは近代に到り重点が実用鶏に転向された後も充分に発揮され、或は初生雛の雌雄の鑑別技術として全世界に実用化され、或は名古屋種(卵肉兼用)・三河種(卵用)という実用種の育成に成功し、又年間無休の産卵鶏も多数出している。更に現在1群(数10羽)の平均が280卵を産む系統、飼料適応性の強い卵用種が作り出されつつある。この様な現状より今日の成雌鶏4500万羽・国民1人当り年間76個の卵の供給も今後は更に向上する事は明白であるが、酉年の年頭にあたり、日本の鶏が経営の中に深く根を下し農業を振興させる礎となり、しかも豊富に安価に供給してくれる卵が国民の体位の向上に貢献してくれ、肇国の常世長鳴鶏の如く日本に大いなる光をもたらしてくれる事を祈るものである。

(母校畜産学担当教官)

新しい心がまえ

石倉新十郎

新年何とはなしに改まり、お目出たい気持ちがいたします。考えれば日々新たなりで、新年に限ったわけではない。そしてどうぞ相変わらずとあいさつをさせていただきます。改まることゝ、相変わらずは矛盾するようだが、決してそうとは思われぬ。今まで感心できなかった事は改まつて、良かった事は相変わらずに願いたいからでしょう。

千曲会も会員が一致協力発展に奮励努力することはどうぞ相変わらずで、何とか改まつてお目出度うにしてもらいたい事は数限りなくあるでしょう。世の中は、いや応なしに推移して行くのに、古い習慣が其ま残つていて、古い人には結構でも、若い人にはうんざりする事が多いのではないのでしょうか。

人の名は一生変らないことが大切だが、役者、画家、坊さんなどには本名は大して必要がないらしい。代え名の方が社会的に役立つ。学校名も其の性質が変るたびに變るのが当然で、旧名を保存することを主張する人は一人もない。だのにわが千曲会の名は会自体の内容が年と共に變つたのに相変わらずに居るのは目出たいのでしょうか。会員の中には性質の變つて居る出身者を含み其れが年と共に増すばかりで、古い者は逆に減るばかりです。そして社会情勢はもう新人にふさわしいように變つて居るのです。千曲会の名になずかしむ会員は何年後にかは暁の星となるでしょう。もうすでに改名の時期として遅いのではないのでしょうか。

私が事新しうに言うまでもなく、社会情勢は敗戦後急激に變つて来て、東京では美術展覧会、フワツシヨンシヨウと

か新しい内外の映画などでみますと、驚く程の傾向を現して、一般の社会問題になつて居るのであります。旧思想になずんでいる人達からは悪い思想的流れだとして、復古挽回にあせつており、ことに政治家では自民党の老人幹部や、実業界でも老実力家達が揃つてあせりのぼせて居るようです。自分が老人で時代の推移に脱れることを反省しないで、抑制する法律まで造ろうと血迷つて居るでしょう。

敗戦復員した人達には不快づくめの社会であり、不平不満のやり場がなく、人間があり余つて将来自主的生活の道さえ見当たらない所から、旧習を打破し何かを求めたいが、見当つかず目前の何であれ思うままにやつてのけるのが現代青年の通有性ではないですか。文学映画や芸術の傾向が其の現れて決して作者の指導になつた結果ではないでしょう。こうした真相の認識がなく、また指導理念もなく、教育体制にす法的抑制を加えようとする古老の頑迷は青年層の噴瀆爆発にまで導こうとしているのではないですか。

千曲会も反省を忘れて、いつまでも旧態を止め、旧習を守ろうとするならば、若い人達は唯会を離れ去るのみで、爆発する代りに会の消滅を招くことになるのではないのでしょうか。履きちがえた、どうぞ相変わらずは会消滅の称名でしかない。心の改新にこそ真にお目出とうが発生してくるのではないですか。私は今年で数え73才の老人ではありますが、若い人達と共に新年から改まつてのお目出とうと申し上げたいのであります。

岡先生を悼む

野口新太郎

元上田織維専門学校教授岡徳太郎先生には去る9月30日郷里津市の自宅で脳溢血のため急逝されました。真に悲しい極であります。

先生は東大工学部機械科を卒業されて、大正10年母校教授として赴任、其後2ケ年間英米独に留学、帰朝後生徒監、紡織科長等を歴任され、昭和19年後進に道を譲つて退官なされたのであります。

先生を一言に申し上げれば正義の人、義侠の人、気概の人でありました。微塵も飾り気のない一見村夫子然とした温厚な方でしたが、一旦正しいと信ずれば別人の如く猛然と立ち上り断乎としてやり抜く人でありました。石倉初代紡織科長の

後をつぎ幾多困難な条件下よく紡織科の充實を図られた事、校友会柔道部長として全国制覇3連続の偉業をなし遂げられた事などを初め、其他母校に尽された数々の功績は、總て非凡な先生の実行力を物語るものであります。素朴な風彩に似合わずなかなか趣味豊かで尺八は素人ばなれの腕前でありました。時たま先生のお宅など訪ねるとよく奥様の琴と合奏などして居られたものです。

先生退官御帰郷後は全く晴耕雨読平和な日を送つて居られましたが、此春軽い脳溢血の発作あり、以来御療養の結果最近では殆んど病前に變らぬ迄に快復されたと思つていましたのに此度の突然の訃報は真に哀悼に堪えません。

針塚先生を初め三谷、阿形、和田、大滝先生既に逝き此度又岡先生を失う、真に感慨無量寂寥の感に堪えません。謹んで先生の御冥福を祈ります。

アジア協会蚕糸業委員会と ビルマの賠償に就いて

唐 沢 正 平

昨年2月私の提唱した「アジア蚕業技術開発協会と日本シルクセンターの構想」の前半を基礎として日本の蚕糸に関する科学技術をアジア各国の蚕業技術開発に役立たせ、日本と各国との親善友好、経済提携促進の目的を以て、各国から要請があれば日本の蚕糸技術者を派遣し、又海外から来る研修生等の世話をしたり或は、各国との情報交換等をするを目的として、昨年4月社団法人アジア協会に平塚英吉博士を委員長とする蚕糸業委員会が設置されたことは本誌昨年9月号に報告した。

其の後、本委員会は数回に亘る委員会並幹事会を開催し、海外からの蚕糸業研修生、留学生との懇談会や実地視察を行い、又、アジア各国に於ける蚕糸業事情、とりわけ日本から現在アジア各国に派遣されている蚕糸技術者の実状や各国の養蚕、製糸、織物、生糸消費状況等について調査研究しつつある。其の結果現在日本の蚕糸技術者でアジア各国に駐在して技術を現地人に指導しているものは、国連FAO職員としてインドに湯原淳、イランに柿崎尚、ビルマに田中典男の諸氏がある。ビルマには其の外、政府の雇傭或は日本からの役務賠償の形式で蚕種、養蚕関係9名、製糸関係8名計17名が駐在して指導に従事し、尚近く3名が渡航する予定である。ビルマは一昨年来日本の技術者を招聘して桑園の新設、製糸工場、干満場の建設、繰糸女工の養成或はマングレー農科大学に養蚕科を新設する等近年養蚕及製糸の開発に大いに力を入れている。殊に一昨年日本との間に賠償協定成立後は此の賠償によつて急速に蚕糸業を開発し、農業の経営を改善しようと企画している。今後、ビルマに渡航する蚕糸業技術者は賠償協定に基いて殆ど役務賠償として渡航することとなるであろう。然し何分、賠償協定によると言つても未だ漸く賠償事務が発足したばかりで其の取扱等が萬事不馴れで、初めてのことが多いからその実行については種々改善を要する点があ

る。例へば桑苗を日本から輸出するとしても取引手続に時間を要している間に発芽してついに送れなかつたとか、少量の蚕種を注文したが手続に手間どつて掃立時期に間に合わず、ついに輸出出来なかつたとか。派遣技術者についても更に人選を慎重にすれば指導能率も挙り、日本人に対する現他人の信頼感を深め、両国の親善にも一層役立つだらうと考えられる節がある。又駐在する日本人技術者間の連絡、親交を密にし、或は、ビルマ側及日本側の官庁や当業者間に立つて更に連絡を円滑に進める者があれば一層賠償を有効適切に運営することが出来ると考えられるので、之等について改善する必要があることが発見された。此処に於て、蚕糸業委員会は第3回委員会で「ビルマ賠償に関連し蚕糸業関係者の協力改善に関する意見書」を決議し、更に之れをアジア協会理事会に諮り昨年7月会長藤山慶一郎名を以て外務、農林、通産、経済企画庁の4大臣に建議し、又、在東京ビルマ賠償使節団長及びビルマ政府工業局長（ビルマは蚕糸業は工業局長の所管である）等に陳情して今後の蚕糸業関係の賠償改善について種々意見を具申建議して了解を得た。今回中田太郎博士がマングレー大学教授に採用されるに際し、前記の様な事情を考慮し、教職以外に日本からの派遣技術者、日本ビルマ両国の官庁や当業者又は団体等の間に立つて種々の連絡にもあたらせ度いとのビルマ側の意向も、本建議による表われの一端である。賠償は賠償協定によつて日本が果さねばならない義務であり、而も日本国民の税金で賄われるものであるからこれを最も有効に完遂し、ビルマの経済開発を円滑に遂行することが日本、ビルマ両国今後の親善友好を促進するゆえんである。ビルマ側も本委員会の誠意ある陳情を非常に好感を以て受け入れた模様であるから今後の賠償を円満に遂行させる為には本委員会の建議が役立つことと信ずる。

(31, 10, 23記 蚕糸業委員会幹事長)

千曲会就職 幹旋部発足

去る10月27日就職幹旋委員会を開催した結果特別活動資金募集の趣旨に沿い就職幹旋部を設置する事となつた。その概要は次の如くである。

1. 会員の就職幹旋のため次の機構を設ける。

就職幹旋委員会

就職幹旋委員長(理事長) — 各科幹旋主任 — 支部幹旋委員
母 校 職 員

- (1) この部は、母校の就職幹旋機関と緊密な連絡を保つて会員の就職幹旋を行う。
- (2) 就職幹旋部長は、この部を統轄する。
- (3) 就職幹旋委員会は本会役員及び支部幹旋委員を以つて組織し、この部の経費その他重要な事項を審議決定する。
- (4) 各科幹旋主任は支部幹旋委員及び、母校職員との協力を得て、その科出身者の幹旋事務を掌る。
- (5) 支部幹旋委員は情報を提供し、その他必要な協力をを行う。(但し繊維農学科、別科養蚕課程は、養蚕学科に

教師科、別科製糸課程関係は、製糸学科に所属するものとすのる。)

- 2. 就職幹旋の経費(主として旅費)は、特別活動資金中より当分暫定経費(昭和33年3月末迄)として、金20万円支出することとし、これを次の通り配分する。尚、この用途については就職幹旋部長及各科幹旋主任の責任のもとに行う。

学 科	均 等 割	会 員 数 割	合 計
養蚕学科	20,000	42,000	62,000
製糸 "	20,000	42,000	62,000
紡織 "	20,000	23,000	43,000
繊維化 "	20,000	13,000	33,000
合 計	80,000	120,000	200,000

尚、この就職幹旋主任の職務担当は、次の諸氏が当ることとなつた。

養蚕学科関係 浦生 俊興 製糸学科関係 林 貞二
紡織 " 野口新太郎 繊維化 " 北条舒正

第17回千曲会総会開催さる

…………… 理事長に野口新太郎氏再任 ……………

恒例の行事である定期総会は去る11月23日母校会議室に於て開催され、北は山形から南は鹿児島に及ぶ17支会の代表者等100名近い会員が参集し、宮城博氏(北信支会)議長、母袋忠右エ門(上小支会)中山吉二(鹿児島支会)両氏副議長のもとに会議は進められ、会務報告の後提案議題につき極めて活潑な論議が交され、午後6時半すぎ漸く終了した。引続き市内香青軒に於て母校職員40名(会員も含む)との懇親会を行い、盛大裡に本年度最大の行事である総会の幕を閉じた尚以下は本總會に於ける議事の概要である。

- (1) 昭和30年度追加予算について(本部提案)
- (2) 昭和30年度決算について(本部提案)
- (3) 昭和31年度追加予算について(本部提案)

以上3議題は異議なく別項掲載の如く原案通り承認された。

(4) 東京に連絡事務所設置について(東京支会提案)

東京に千曲会の連絡事務所を設置することは昨年の總會に東京支会より提案され、経費として6万円の支出も承認されていたので、東京支会ではすでに渋谷区代々木初台町627東栄興業内に事務所を設置してある旨説明がなされ、又更に千曲会発展のためにこれを強化すべきであるとの趣旨のもとにこの事務所を千曲会東京事務所として運営するための関係予算の要求があつた。これに対し出席代議員より全面的に賛成、或は趣旨には賛成であるが現在の千曲会としては事務機構の整備が急務である等の論戦が交され、結局小委員会に付託されることになり、小委員会は慎重審議の結果「設置の必要性は確認する。しかし現在の千曲会の経済内容では充分な経費の支出は検討を要するので昨年認められた経費がまだ未支出になつているからこれを活用し尚多少の不足分はしかるべき機関に諮る。事務所は千曲会全体のものであるから、設置には本部が主体となり東京支会はこれに協力する形をとる」との結論を打出し、本會議に於て更に論議の末「小委員会の線に沿つてやつて行く。経費の不足分は理事会で善処して行く」こととして本案は承認された。

(5) 会費の値上げについて(本部提案)

中島理事より提案理由として「会報の増発等だけで現在会員1人当たり年200円を必要とすること、その他種々の事情から値上げの必要にせまられている。本部案としては会費は1

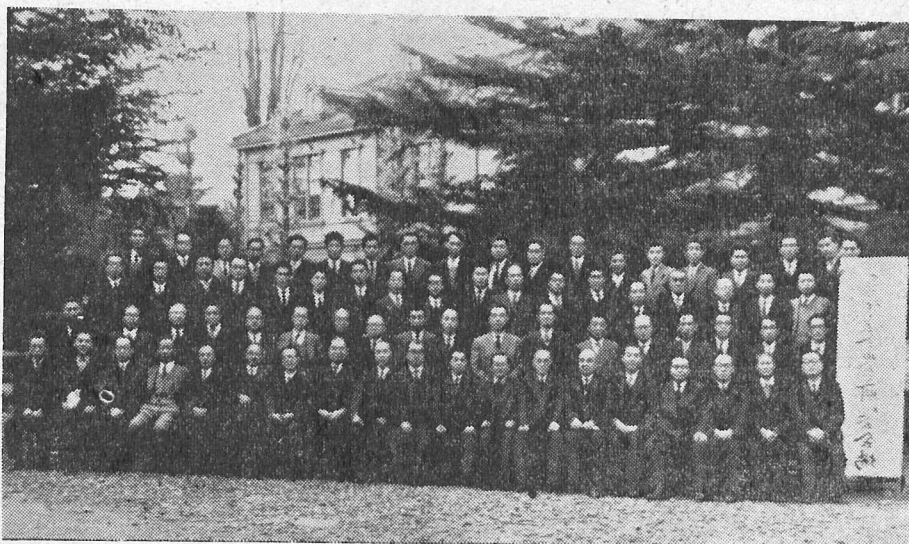
人当たり年額300円とし、そのうち支会交付金を100円とする。また入会金は400円とする」との説明があり、これに対し徴収方法の具体的明示、徴収方法の合理化等を前提条件として賛成する、或は値上げを1年間延期されたい、或はまた鹿児島支会よりは支会交付金は全廃すべきである等種々の意見が出され、会計当理事より過去の徴収方法及び今後の徴収方針等に対する考えが述べられ審議の末本部提案通り承認。

(6) 定款変更について(本部及び東京支会提案)

本部より会費の値上げに伴い定款第2章第7条及び第8条を変更する必要があるとの提案がなされ、また東京支会より第3章第12条第3項中の「長野県及びその近接付近の」を削除されたいとの提案があり、異議なく承認。

(7) 昭和32年度予算について(本部提案)

町田理事より提案理由説明後東京支会より編集担当者に手当のだけせるように会報編集費を増額されたいとの意見がのべられ、更に北信支会よりも同様な意向が述べられた。これに対し理事長より予備費から適宜考慮するとの答弁があり原案通り承認。



(8) 母校30周年記念事業について(本部提案)

(9) 同上(東京支会提案)

この2議題は1括上提され、本部案としては記念事業準備委員長久保田昌人氏(依田室支会)より準備委員会の結論が述べられた。即ち「数度に亘る委員会により慎重審議の結果重点を1事業におく事には意見の一致をみたが、その具体案については(1)上田市内に公共的な会館を建設する、(2)記念資金を設定し、これよりの収入によつて千曲会の発展、会員の各方面の活動、母校の研究活動の援助その他必要なる事業を行う、(3)母校に大学として必要な研究施設を設置する、の3案があるが、その決定を急がずに更に1ケ年間継続審議することとなつた」旨を報告。続いて東京支会よりの提案理由の説明として小林運美氏より「上記第1案の会館設置に反対し、第2案の資金設定に賛成するが、実施までに相当の期間があるので各支会でよく検討されたい」旨のべられ、結局この議題は1年間継続審議することを承認。

尚これに関する今後の研究問題として、移動図書館を作ること、東京に会館または事務所を作ること、母校の研究施設を充実するようにすること、母校に於ける卒業生以外の教官の意見も十分に参考にすること等の希望意見が開陳された。

(10) 役員選挙方法について (東京支会提案)

提案理由として「従来のように母校在職会員を中心とした役員でなく、全会員から選出された役員により運営するという趣旨の下に選挙をしてもらいたい」との説明があり、これに対し遠隔地役員は会議に出席できない場合が多いこと及び経費を多く要すること等から反対意見も述べられたが、結局提案の趣旨を考慮に入れて役員を選任を行うことを承認。

(11) 役員の変更 (本部提案)

役員任期満了につきその改選が本部より提案され、本部及各支部より1名づつ選考委員があげられ、第10議案の趣旨にそつて役員が選考され、これを総会に報告し、異議なく承認された。新理事の互選により新理事長に野口新太郎氏が再任された。

(12) 賛助会員の推薦について (本部提案)

母校職員横山滋、横井政時、長島栄一、清道伝の4氏を賛助会員に推薦し、承認。

(13) 緊急動議

上小支会より先に退職された久保藤一氏に対し感謝状と記念品を贈呈するよう動議が出され満場一致で賛成。

近年千曲会総会は回を重ねる度に出席者の数を増し本年は母校本館会議室が立錫の余地ない程の盛会であつた。また総会後の懇親会も母校教官及び事務官が多数参加して、これまた近頃ない盛会であつた。(編集担当者かく)

11月15日現在の特別活動資金の収支関係

収入	324,900円
支出	37,115円

支出内訳

支会交付金	5,655円
通信費	12,840円
印刷消耗品費	8,780円
就職斡旋委員旅費	9,440円
委員会費	400円

昭和30年度社団法人千曲会收支決算書

収入 (△印は減)		増減		附記
種目	本年度 本決算額 円	本年度 本予算額 円	増減	
1. 基本財産より生ずる預金利息	12,574	9,180	3,394	増したるは預金額多かりしによる
2. 前年度繰越金	56,566	5,000	51,566	増したるは経費の節約による
3. 雑収入	8,847	3,271	5,576	増したるは会報の広告多かりしによる
4. 入会金	37,800	32,000	5,800	増したるは納者多かりしによる
5. 会費	515,429	305,000	210,429	全上
6. 寄附金	200	100	100	
収入合計	631,416	354,551	276,865	
支出 (△印は減)		増減		附記
種目	本年度 本決算額 円	本年度 本予算額 円	増減	
1. 会議費	17,395	25,000	△7,605	

2. 事務所費	86,490	62,000	24,490
3. 事業費	124,676	147,610	△22,934
4. 基本財産造成費	37,800	32,000	5,800
5. 会費納入交付金	38,190	77,941	10,249
6. 研究補助費	—	5,000	△5,000
7. 予備費	—	5,000	△5,000
支出合計	354,551	354,551	—

増したるは会費納入者多かりしによる

昭和31年度社団法人千曲会追加予算書

収入		合計		附記
種目	追加 予算額 円	既予 算額 円	合計 円	
2. 前年度繰越金	176,500	5,000	181,500	前年度繰越金
収入合計	176,500	417,160	593,660	
支出		合計		附記
種目	追加 予算額 円	既予 算額 円	合計 円	
2. 事務所費	70,000	86,100	156,100	臨時雇員分印刷機
3. 事業費	106,500	226,060	332,560	会報発行費
支出合計	176,500	417,160	593,660	

昭和32年度社団法人千曲会收支予算書

収入 (△は減)		増減		附記
種目	本年度 本予算額 円	前年度 本予算額 円	増減	
1. 財産より生ずる預金利息	13,074	11,154	1,420	基本金217900円に対する年6分の利子
2. 前年度繰越金	50,000	181,500	△131,500	
3. 雑収入	18,126	2,906	15,220	
4. 入会金	64,000	32,000	32,000	1人400円宛160人分
5. 会費	760,000	366,000	394,000	1人300円宛1,900人分
6. 寄附	100	100	—	
収入合計	905,300	593,660	311,640	
支出 (△印は減)		増減		附記
種目	本年度 本予算額 円	前年度 本予算額 円	増減	
1. 会議費	65,000	26,000	39,000	
2. 事務所費	196,600	156,100	40,500	
3. 事業費	349,600	332,560	17,040	
4. 基本財産造成費	64,000	32,000	32,000	
5. 会費納入交付金	130,000	40,000	90,000	各支会に対する交付金
6. 研究補助費	100	2,000	△1,900	各科研究会へ補助
7. 予備	100,000	5,000	95,000	予算超過の費途に充つ
支出合計	905,300	593,660	311,640	

才17回総会出席者

東京支会	唐木田藤五郎	小林 運美	鈴木 教吾
	清水 良一	佐藤 三次	富岡 秀
	宮下 久吉	齊藤 義臣	篠原 定雄
	小川原 禎寿		
北佐支会	土屋 茂一郎	高木 三治	岸 勝 弥
	神林 浩三	宮城 博	
三丹支会	馬場 長市		
宮城支会	上野 義一		
依田窪支会	桜井 吉利	久保田 昌人	
鹿児島支会	中山 吉二		
山形支会	馬場 昭		
静岡支会	浅川 茂樹		
神奈川支会	高原 友之助	近藤 成敏	
安筑支会	中村 肇		
近畿支会	江口 晴雄	石坂 虎次郎	
龍川支会	吉沢 武男	石塚 浪之助	
南佐久支会	内藤 久男	松永 省吾	
北佐久支会	新井 宗之助		
群馬支会	目崎 武美	山岸 男	浜井 寿夫
	小柳 源一		
更埴支会	田口 栄治		
上小支会	田中 一行	清水 周	田口 亮平
	須田 圭二	佐藤 一	竹田 寛
	町田 博	関 博夫	北条 舒正
	古平 福紀	桜井 善雄	香山 清和
	中島 暹	荻原 清治	山口 定次郎
	野口 新太郎	西山 久雄	宇野 保夫
	北条五郎右エ門	田中 茂光	松尾 卓見
	堀内 波	柳沢 連子	小林 尚一
	猪坂 直一	西村 善次	押金 健吾
	山崎 嘗録	今井 甲子男	石川 博
	母袋忠右エ門	坂口 育三	青 沼 茂
	箱山 住夫	山下 忠雄	田 久米子
	加々井 精喜	倉沢 美德	市 村 亘
	美齊津 利正	小山 定	井沢 喜三
	竹内 善吾	林 貞三	一之瀬 匡興
	横沢 正雄	宮堀 俊雄	土屋 幾雄
	白井 美明	遠藤 恒久	川上 保人
	島田 林助	中原 武	小宮山 太助
	矢彦沢 清亮	別府 茂	木藤 半平
	柳沢 幸雄	阿久津 伊平	和田 晋
	蒲生 俊与	篠原 昭	八木 誠政
	臼田 隆夫	松橋 房江	笠原 義人

才17回総会に於て改選された役員

理事長 野口 新太郎
 副理事長 猪坂 直一 小林 運美
 理事 北条 舒正 香山 清和 小山 清
 宮前 邦雄 宮城 博 町田 博
 中島 暹 大山 融 大池 登
 荻原 清治 桜井 吉利 茂原 重雄
 清水 良一 齊藤 義臣 田口 亮平
 山崎 寿 山口 定次郎
 監 車 神林 浩三 笠原 義人 小林 尚一
 奥村 忠治 和田 晋
 高評議員は30年12月15日の理事会にて決定する事となつたので次号に掲載予定(11月30日記)

母 校 便 り

学部祭盛大に行わる

今年の学部祭は去る10月25日の前夜祭を以て幕をあけ27~28日学内を公開し、又演劇、映画、ダンスパーティー等多彩な行事がくりひろげられた。28日には大運動会が催され盛会裡に終了した。

会田隅田両教官授教に栄進

繊維化学科所属の両教官は9月15日付をもつて教授に栄進された。

講演会開催

呉祐吉教授は30年4月イスラエルに於て開かれた国際高分子化学シンポジウムに参加し、その後欧州諸国の大学研究機関等を歴訪され8月15日無事帰国されたので同先生の公開講演会を11月10日午後1時より開催した。演題は次の如くである。

通俗講演 イスラエルより欧州の旅—幻燈を中心に—
 学術講演 イズラエル及び欧州に於ける研究について

繊維学部振興委員会委員改選

11月12日の教官会議に於て委員の改選が行われた。新委員は次の通り。任期2年

養蚕学科	蒲生 教授	田口 教授
製糸学科	林 教授	荻原 教授
紡織学科	野口 教授	呉 教授
繊維化学科	大平 教授	隅田 教授
教養文科	中村 助教授	
教養理科	八木 教授	

林教授日本学術会議第4期会員に当せん

去る12月に行われた学術会議第4期会員選挙に日本蚕糸学会の推薦により立候補された林教授は蚕糸部門に於ける最高点にて見事当せんされた。

本 会 日 誌

10月27日(土) 母校創立五十周年記念事業計画準備委員会開催
 10月27日(土) 就職斡旋委員会開催
 11月22日(金) 理事会開催
 " " 監事 "
 " 23日 午前9時より10時迄役員会開催
 " " 午前10時より定期總會開催

蚕糸・繊維化学の最近の研究

..... 原 著

織物変形解析への差分方程式の応用

篠 原

昭 (信大繊維学部繊維物理学教室)

最も簡単な一例について述べる。今矩形の布の相対する2辺を固定し、残りの2辺の中1辺は free にし、他の1辺の中央部をつまんで、布面に平行に引張つたとする。言うまでもなく、力の方向と直角な向きの糸は弓状に曲がる。日常よく見かける織物変形の1つである。試みに安い背広を着て左のポケットに重い物を入れてみたまえ、左の胸ポケットは引張られてポケットの裏地が三日月状に顔を出すはずである。

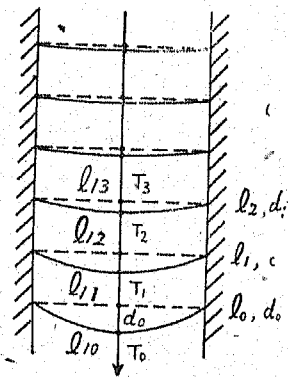
こういう問題を一般的な方法で解析するには自由度が多過ぎて複雑である。だから今迄微分幾何学や解析幾何学の Affin 変換を使つて研究されてきた。こゝでは差分方程式 Difference Equation によつて解析する1つの手掛かりを提唱するものである。

判りやすいために1つの単純なモデルを仮定する。

今図のように一定間隔で横方向の糸 $l_0, l_1, l_2, \dots, l_n$ が並び、それに縦方向の糸 $l_{10}, l_{11}, l_{12}, \dots, l_{1n}$ が直角に組み合わせさせておるものとする。各接点は完全接合とし、かつ l_{10}, l_{12}, \dots は互に独立とする。各 l_{10}, l_{12}, \dots の張力を T_1, T_2, \dots, T_n 、各撓みを d_0, d_1, \dots, d_n 、また l_0, l_1, \dots を d_0, d_1 だけ撓ませるに要する力を $f(d_0), f(d_1), \dots, f(d_n)$ とすると次の関係が成り立つ。

$$\begin{aligned} T_0 - T_1 &= f(d_0) \\ T_1 - T_2 &= f(d_1) \\ &\dots\dots\dots \\ T_{x-1} - T_x &= f(d_{x-1}) \\ T_x - T_{x+1} &= f(d_x) \dots\dots\dots(1) \end{aligned}$$

また $l_{11} = l_{12} = \dots = l_{1n}$ であるから弾性の常数を K として $T_1 = K(d_0 - d_1)$



$$\begin{aligned} T_2 &= K(d_1 - d_2) \\ &\dots\dots\dots \\ T_x &= K(d_{x-1} - d_x) \\ T_{x+1} &= K(d_x - d_{x+1}) \end{aligned} \dots\dots\dots(2)$$

上記(1)式と(2)式から

$$K(d_{x-1} - d_x) - K(d_x - d_{x+1}) = f(d_x)$$

一般に水平張力を受けている糸の中央に集中荷重した場合の撓み量は、変形が微小な時には荷重に比例するとみなせるから、比例常数を λ として

$$d_{x-1} - A d_x + d_{x+1} = 0 \dots\dots\dots(3)$$

こゝで $A = 2 + f/K$ である、これは二階の同次差分方程式である。(3)に $d_x = e^{\lambda x}$ (λ : 未定常数)を代入すると

$$e^{\lambda(x-1)} - A e^{\lambda x} + e^{\lambda(x+1)} = 0$$

これを $e^{\lambda x}$ で除して $e^{-\lambda} - A + e^{\lambda} = 0$, よつて

$$A/2 = \cosh \lambda \dots\dots\dots(4)$$

(3)式の一般解は(4)式より

$$d_x = A_1 e^{\lambda x} + A_2 e^{-\lambda x} \dots\dots\dots(5)$$

或は $d_x = B_1 \cosh \lambda x + B_2 \sinh \lambda x$

境界条件は $x=0$ で $d_0 = K T_0$ 及び $x=\infty$ で $d_{\infty} = 0$, こゝで T_0 は加える張力である、故に

$$d_x = K T_0 e^{-\lambda x} \dots\dots\dots(6)$$

となり指数函数的に減少することがわかる。この結果は日常よくある服のミダレ等の説明に役立つものである。

交叉点における摩擦効果を考慮した場合も全く同様で、ベルト車の公式を借用して計算できる。

以上は1つのモデルについての一例にすぎないが、各種の場合に応用できそうである。諸兄の御批判を仰ぎたいと思う。これの文献としてはカルマン・ピオの "Mathematical method in engineering." が手頃と思われる。尚この問題については呉祐吉先生、内田貞夫先生並びに教室の松橋房江氏に議論していただいた。この詳細は何れ専門誌に発表する予定である。

..... 学術雑誌よりの抄録紹介

直接染料による羊毛の染色

Philadelp Ipnia Section

Am. Dyestuff Repr. 44, 806 (1955)

羊毛を直接染料によつて染色しうことは以前からわかつていたが、従来は羊毛と綿との交織物に應用されていたにすぎなかつた。

原毛は 50-56 stonestic grade を用い非イオン洗剤、ソーダ灰、メタ珪酸ソーダで精練し、4/14S 番手にした。

染色には10グラムの総を用いた。

結論のみを云えば、実験に供した 260種に及ぶ直接染料は PH6.0 において羊毛を染色することができるし、必要ならば染料を吸尽すことも可能である。PH を下げるることによつて染色速度を大にすることができるので、これによつて染

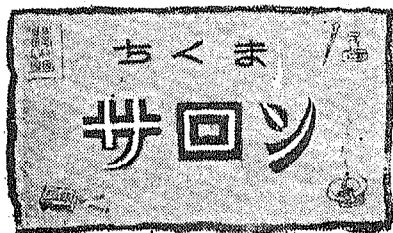
色を加減できる。しかし直接染料染色においては、同一 PH において染色速度を小にして均一に染色することが大切である。

Fade-ometer 試験では短時間で褪色するものから loohrw. 上でも変化しないものもある。

色付試験 (Staining test) は、羊毛白布に対しては優秀な堅牢度を持ち、白木綿布に対しては優劣さまざまである。

しかしこの堅牢度でクリーニングや家庭の洗濯には充分耐える。臭化クロームで後処理すると木綿に対する堅牢度も改善しう。染料の retention は milling 染料よりもすぐれている。染浴中の染料の聚合は芒硝その他の助剤を加えることによつて防止できる。

従つて直接染料による羊毛染色は一考に値する。(三石)



米を食わずに5年

八木 誠 政

外国に生活して居れば、たべたくても米飯を口にすることは困難であるが、日本で米の飯を食わずに居ることは中々簡単のようでそうではない。一番にこまるのは旅行である。汽車の弁当はサンドウィッチを売っている駅までがまんしなければならぬ。信越線では駅でソバを売っている所がちよいちよいあるのでそれをやることにすればよいとして、他の線では米飯の辨当が殆どである。永い間私はパンを持参して旅行をした。今でも不便な地方に行く時はパンとリンゴを2~3日分持参する習慣であるから苦痛はない次に困るのは突然昼飯時に名物のうなぎ飯とか、すし等を取りよせて出されることである。そう云う時は前もって私は米食をしませんからとことわつて置けばよい筈であるが、あらかじめ声明するのはかえつて逆にとられる恐れが多分にある。それで他所には成る可く昼飯時をさけて訪問することにして居る。

宴会にはだまつて飯は食わずにかえられるから別にこまらない。定例の会合では幹事が私にだけソバをとつてくれるように決めて居るので工合がよい。こうして私の米を食わぬ生活は今年の12月で丁度満5年になるわけであつて非常によい経験と実験をしたと思うのでこゝに其の効能をお知らせして皆様の御参考供したいと思う。

先づなぜそんなことを考へるようになったかをかく必要があるように思うのでそれから始めよう。1951年の8月に私は当時オランダで開かれた学会に出席し帰途スイス人の友人の家で2週間泊めてもらった。

毎日家族7人と私を加えて8人の食事をしたのであるが昼飯時には1日おき位

にリンゴかスモモのパイ又はリンゴをおろしたものに牛乳とクリームを混ぜたものを食べさせられた。それで彼曰く「スイスは食糧が不足して小麦は自給が出来ず半年分は外国から買つて居るので国民は成る可く小麦を消費しないように果物を食べて間に合せる習慣になつて居る」と。私はこれを聞いて自分の国のことを考えずには居られなくなり、よし国へ帰えつたら自分もリンゴを大に消費し、米を食う量をへらそうと思つて10月半ばにかえつて来たのであるが、其の年は米を食べて居た。所がどうも米を食うと必ずねむくなり胃の工合も外国に居た時のようによくない。そこで一層米食を中止して見ようと発心して翌正月15日からパンとリンゴ又はいはゆる粉食で過ごすことを始めたのである。

いささか意地張りであるが絶対に米食をしないと人にも声明したが家では勿論私は1粒も米を食わずに生活して来た。この行いでもはや今は何とも苦痛は感じない所か胃の工合は非常によくなり、食事の後すぐに本を読んでも苦痛はなく、消化は完全でねむ気も催さない。したがつて勉強の能率は若い時以上に向上したし、研究はますます進むようになったのである。

その外に意志でこれは止めようとするのは何でも容易に出来るようになった。其の第1は煙草を吸うのを完全に中止出来たことである。煙草は外国に行く前一時止めたが飛行機の中でサービスに出してくれる外国煙草に誘わくされ元に戻つたのを米を食わなくなつてから止めることが出来た。アメリカでは胃の腑教育といふことを赤坊の時から行う様にすゝめて居ることは前に行つた時に知つて居たが私はこの年令になつて始めて自分の胃の腑教育を行ひ得たわけに誠におはづかしい次第である。それでも行なわないうよりは得る所があつたように思う。昔はよくおでんなどで一ぱいやりだかつたが米を食はぬと其の欲望も全く起らないし、すし等もたべないので道草を食うことが少なくなつた。妙なものでジャガイモが大変うまく感ずるようになり米と同じ位においしく食べられる。ドイツではそのイモを主食にして居ることがよくわ

かるようになった。リンゴは私は主食と同じであるからこの不作は心配になる。米を食はない効能は未だ沢山あるが私は東京に行くといふ人でパンとリンゴとそばで暮せるのでかまどの必要がない。電気が来て居る所なら何所でも電気ヒーター1つで暮せるのである。朝は家内が飯をたく必要がないので寒い冬等は非常に楽である。私の所では味噌は不要であり、つけものも朝づけ位のものである。この様に生活を簡易化することが出来るので主婦にはよろこばれる。

学校給食は戦争の賜であつたがこれは将来の日本の食生活を改善するのに非常に役立つものと思う。日本人で米を食わぬなんて日本人でないといふ人達の中には云うものもあるかも知れぬが、それはそれで若い次の代の人達は学校の給食も1つの胃の腑教育であると思つてもらいたい。私は自分の実験で米を食わずに5年間は生きて来て居る。これからもつづける覚悟である。日本では人間のみならず家畜も食糧をかえて行く必要にせまられて居る。この狭い国土にやがて1億の人が生活して行くには食性活改革以外に手はないと私は思うのである。(母校教授)

茶目の失敗

中山 生

35年前の蚕蠶供養の日であつたと記憶する。北風の強い寒い日の午後であつた。学課を終えた学生達は供養の始まる迄の間、道端の南側にある池の周囲の芝生に腰を下してよい気持で日なたぼっこをしていた。

元来茶目坊の僕はみんなを驚かしてやろうと、とつさに思いついて、大石を両手で頭上高々と持ちあげ池の真中に投げ込んだ。石が平べつたくて水平に落ちたのだからたまらない。四方に飛び学生達は頭から水をかぶつてしまつた。

音で驚かすつもりであつた僕は予想もしない出来事に唖然となり、わびるにわびられず済まなさい一杯であつた。

被害を受けた学生達は憤慨して「いたづらにも程がある」と口々に罵つた。

しかし一番濡れ鼠になつたと思える一人だけがにこにこ笑つて頭の水を両手で

撫で落しながら「いいよ、いいよ、何でもないよ」と静かに云ってくれた。僕のこのときの感動と感謝は云いようのないものであつた。

その後気短かな僕も、寛大な一学生の事を思い出しては、人を許すことが屢々あつた。

その学生は蚕業県の蚕糸課長となつた宮城博氏である。(蚕12)

ちくま才4回クイズ

？はて？ さて？

元旦の朝、私が眼をさますと、しづい歌声がとなりから聞えて来た。K先生のトソ気嫌の歌である。K先生はふだんカタ人で歌など唄うことがないのと思ひながら、聞いていると、次のような文句である。

鳥鳴くこゑす 夢さませ
見よ 明け渡る ひんがしを
空色映えて 沖つ辺に
帆影群れるぬ もやの中

何だか聞いたような、どこかで見たような歌詞だなあ？ と考えていると、ふとK先生が高校の国語の先生であることに私は想倒して歌の何たるかが氷解した。さて皆さんはどうでしょう。

問 題

- 1, この歌は本来何をねらつて作られたものでしょうか？
- 2, 日本にこの種の歌で更に有名なものがありますが、それは誰の作といわれていますか？
- 3, この歌とその歌では重大な相異点が1つあります。それは何でしょう？ (出題・天道虫)

解答締切 1月15日

正解者には抽せんの上、3名までに薄謝を呈す。

送先：千曲会編集部「クイズ係」

第3回クイズ解答……小林一茶。解答者32名。正解全員(単に一茶としたものも含む)。抽せんの結果下記の方に賞品を贈呈しました。

甲田勝衛(京都府) 柄沢昌一(富山県)
上松武光(上田市)

編 集 子 北 斗 洋 々

編集子投書の山に夢破れ

花咲いたストーブ談義を月のぞく

編集室紙屑だけが山をなし

編集長玉稿頂き恐れ入り

編集子師の原稿に鉢巻し

玉稿と云ふにはチャヤな葉半紙

イラッ
偉物のくれた原稿余白だけ

編集子クイズの様な原稿うけ

後輩にたかられつげなしいゝ気嫌

愛情も理論で割切るオールドミス

せまき門鼻が高くて通られず

編集子投書の山に腹がへり



— アイヌの熊祭り —

練 劍 流 転

滝 口 昇

私の父は剣道が好きだつた。村の青年が始終私の家の庭で剣道をやつて居つた。遠く他村の青壯年も時々やつて来る夜は電燈を晃々と点じて練劍に余念がない。村の秋祭は郡下の大会。夜は警察や学校の猛者が酒宴を家でやる。其の頃私は小学生だつたが、自然近所の友達と或は父に教えられて覚えたのだから剣歴は古い。それから不思議な事に上田を出る迄柔道をやつた。唯、上田の柔道カンガイ試合(新入生)に出場者(新入生)が余りに少かつた事に義憤を發して剣道の歓仰会には出場して6年振り位に珍らし

く竹刀を持つた。此の時私は2人程抜いた。其の時の突きに誘つて小手を打つこの業であつた。此の業は今迄に3回。強い記憶があるが追々記する事とする。さて上田では修己寮に1, 2年と2号室に居つたが2年生の時毎日竹刀をもつて朝御飯前に武道場に現れて千回以上振つた。上段から切り下し正面でビタツト止める方法であつた。足を交互に進退して切り返す大きな鏡の前で。今も上田に等身大の鏡があるだろうか。多い時は2本の竹刀を持つて1600回、今も記録あり。

其の頃掛川中学の応援団長をやり上田

でも団長をやつたヤンチャの松井憲二君と1ヶ月柔道の朝稽古をやつた。所が彼はどうも僕に華を持たせる時の方が多かったのではない。余り記憶も明然としない。彼の来ない日もあつて竹刀振りを始めたのではない。私等が2人で毎朝柔道をやつて居ると小沢丘先生がやはり毎朝竹刀を独りで振つたり鏡の前や革の大人形の前で試練なさつて居つて賞めて下さつた事も嬉しい思い出である。2年の頃伊藤力三君(現宮城県黒川高校長と1回珍らしく剣道をやつた。僕の方が体力だけは勝つて居つたが時たまやつたので無我夢中であつた。其の頃から伊藤君は勿論選手であつたが小沢丘先生と徹底的にケンカの如き勇ましい練習を私を見て居てハラハラした事もあつた。伊藤君遂に敵せず両小手を投げて平服し師弟カカ大笑しておつた場面も記憶に残る。しかし伊藤君も随分強いなあとの心で感心して居つた。彼曰く「滝口君は初段位かな」と友に話したのを又聞きしてとても嬉しかつたものだ。それから上田を出て蒲生博士の助手1年、豊橋工兵入隊、ここから正式の剣道が手ほどきされたのであつた。10ヶ月だつたが殆んど毎日と云いたい位よく練習させられた。スパルタ式であつた30名の候補生中高師出の中根4段、大井体操の別名コデブ3段、東大哲学出自称2段の小柳、岐阜高農の森島2段大デブ(鈴木節郎)自称初段等々を師範としてつくづく辛かつた。防具を被つて15~16名(雨の日雪の日)は室の都合で練習出来ない時大体いねむりして居ると石原軍曹が素晴しく大方の横にスラットした身体をソット近づけて頭が1寸位瞬間下る程コツビドイ御面をくらわせる。之を何回かくらつたものだ。夕方つかれた日でも剣道練習整列の声の嫌な事。かくて除隊後再び蒲生先生の下で我まゝ一ぱいをして居る間に仙台の県農と称する農学校に赴任したのは昭和7年5月12日であつた。美しい森の都、広瀬の清流とうとうたる河畔の農校に3年。剣道は初段になつた。生徒は高等科2年入学。4ケ年の自称名取大学(名取郡の名をとつて)と云い獣医科、農科、この外以前には蚕業科もあつた。日本3大農学校の1つであつた。凡そ校長(中等学校)養成所

の形態をもつて居つた。だから獣医科4年の室に入ると24才の僕はこわかつた。剣道か柔道のクラスであつたから私より年上の生徒が8人も居つた。有段者ならざるなしという。ここの剣道部長をつとめると試合に出ただけで、回数が多いので段になる。伊藤君が私と入れ替つて十何年居られたので練士になつたのも無理はない。

昭和9年、伊達家の神社青葉城趾で思ひ出の試合。3段以下の個人優勝者に私が3人目に当り、実に鮮明な面1本を入れたがコテ2本を入れられ敗れた事もあつた。十何人か抜いた刑務所2段の相手であつた。彼は優勝して伊達家から優秀なる日本刀を頂戴した。戦前一時1本勝負の時もあつたが最近3本勝負に変わった。剣道の試合上手は小中田農林。全国中等学校優勝何回かの経歴をもつ学校だけに試合技術に学ぶべきものがあつた。これも仙台3ケ年の大きな収穫である。彼等5名の選手は黒革胴の真中に20センチ大の金文字の優と言ふ字入り。竹刀は皮許りと言ふ軽い竹刀。軽くとも自分が入ればコテハ!!コテハ!!コテハと叫びつゝ敵の竹刀を払ひつ逃げつ、此の反対に敵に打たれた時は絶対許さずトコト迄追撃急。之が審判へ影響が多少ある。何れにしても伊藤君の居つた南佐久農校と家政女学校へきて正式に剣道の先生となつた。ここで剣の修業は血の出る様な思い出の連続(未完)。

佐藤政宏君の外遊

繊維化学科第3回卒業の佐藤政宏君(丸新フェルト紡織株式会社副社長)は約4ケ月の予定でヨーロッパ、アメリカ及び濠洲の羊毛工業視察のため10月30日夜羽田空港を出発された。同君は羊毛工業界の重鎮丸新フェルト紡織KK社長佐藤卯三郎氏の次男に生れ東京西新井に毛紡績工場、日暮りにフェルト工場、名古屋に東洋整紙KKを経営され何れも副社長として活躍している青年実業家である。同君は本学繊維化学科を卒業後今次大戦に出征し、終戦後私の研究室にて約1ケ年間羊毛の染色加工に関して研究された後現在の工場経営に専心されている。紡績科、繊維化学科の卒業生が10数名同君の工場に就職し何れも幹部技術者として活躍している。同君は極めておん健な性格の中に不屈の強い精神力と実行力を有し

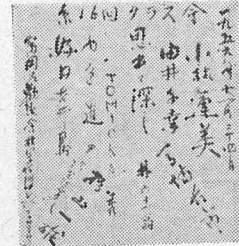
常に自ら工場技術の指導をされている。今回機会を得て外遊されたことは同君今後の発展上に一段のプラスであり、来春3月帰国後の活躍を私は楽しみに期待するものである。(繊維化学科 会田記)

伊藤常治(旧姓神林)君渡米

小諸産業KK油脂工場長をつとめ、新進氣鋭の技術者兼経営者である伊藤君(繊維化学科第4回卒)は今回、日本生産性本部より派遣され4ケ月の予定で米国の油脂工業視察のため去る10月30日羽田空港を出発した。(今井記)

糸16回クラス会の記

ニューヨークの生糸事務所長をしてい富岡秀君の歓迎を兼ねて、霧も深い11月24日の夕刻から軽井沢の星野温泉でクラス会を開いた。往年の紅顔の青年も卒業後27年も経てば、いわゆるロマンスグレイのえらそうな顔をして、9人揃う。当時の新進教授今日は自ら61翁とおつしやられる恩師林貞三先生のご来駕を得た。この中5人がニューヨーク生活をした者だけに舞台は国際的になる。林先生と富岡君が床の間を背にすわり、那是製糸本工場長馬場長市君、第1物産部長杉山一雄君、元代議士小林連美君、中野絹



星野拓弘君と農林省製糸試験所の由井千幸君がこれを囲んでならぶ。学生時代の珍談が続出爆笑は部屋に満つる。30万坪の広大な温泉郷を経営する星野君のはからいで美しく飾られたご馳走は全く食膳をうづめつくした。酒、ビールの空瓶が積まれる。碁、マージャンも始まる。暁の温泉に入つてから一同寝につく。林先生も「仲のいいクラスだなあ」とほめてくださる。出席されぬ級友から懐しいはがきを前にして「親愛なるわが友よ自愛あれ」と祈りつつ乾杯する。翌日の昼過ぎまで青春の血潮を再燃させつつ互に語り且つ遊び続く。浅間の噴煙は初冬の信濃高原の上を昔ながらに流れていた。この会を開くにあたり絶大なる配慮を煩わした中島幹事長並びに星野場長に深謝しペンをおく。(由井)

退任教員記念資金領收

窪田潤先生分

(11月20日現在)

金1,000円

荒井 猛 (糸12)
満沢 脩 (糸22)
小口 英一 (糸12)

金600円

井上 きぬ子 (旧教)
滋野 文雄 (糸19)
武者 忠彦 (糸22)
由井 子幸 (糸16)

金500円

宮原 秀人 (糸19)
三村 大八郎 (糸32)
神戸 敏夫 (糸12)
小川 朋次郎 (旧職)
和田 晋 (糸12)
土屋 孝 (糸15)

金400円

金野 巖保 (糸12)
橋詰 英雄 (糸4)
坂口 静次 (糸23)
杉崎 義朗 (糸34)
長縄 又代 (旧教)

金300円

土屋 茂一郎 (糸9)
宮城 博 (糸13)
永井 俊郎 (糸16)
吉越 繁夫 (糸22)
中沢 政代 (教19)

金200円

中村 新次 (大2)
柳沢 房子 (教7)
岡村 源一 (糸6)
小林 宇佐雄 (糸38)
村山 積助 (糸大1)
飯島 とよ (教2)
西原 美登 (糸24)
清水 英一 (糸22)
上石 睦二郎 (糸29)
永野 裕貞 (糸32)
宮下 久吉 (糸32)
玉田 英男 (糸糸)
佐藤 三次 (糸34)

金100円

清水 智英 (糸34)
春日 正一 (糸31)

佐藤利一先生分

金1,000円

戸塚 一 (糸24)
田中 義磨 (旧職)

金500円

母袋忠右衛門 (糸23)
金崎 真英 (糸9)
降旗 孝 (糸15)
三瓶 常四郎 (糸18)

金400円

和田 善三 (農3)
滋野 文雄 (糸19)

金300円

片山 文一 (糸29)
雨宮 金雄 (糸17)
山内 一次 (糸23)

金200円

桜井 周一 (農1)
塩沢 長 (糸大1)
勝野 貞哉 (糸35)
原田 種亀 (旧職)
宮尾 三富統 (糸38)

金150円

市川 文夫 (糸大1)

金100円

水谷 宏三 (糸別2)
伊藤 大造 (糸3)

佐藤春太郎先生分

金1,000円

戸塚 一 (糸24)

金600円

和田 善三 (農3)

金500円

母袋忠右衛門 (糸23)
金崎 真英 (糸9)
田中 義磨 (旧職)
降旗 孝 (糸15)

金300円

片山 文一 (糸29)
桜井 周一 (農1)
雨宮 金雄 (糸17)
三瓶 常四郎 (糸18)
高橋 秀雄 (糸大1)
山内 一次 (糸23)

金200円

塩沢 長 (糸大1)
勝野 貞哉 (糸35)
原田 種亀 (旧職)
宮尾 三富統 (糸38)

金150円

市川 文夫 (糸大1)

金100円

水谷 宏三 (糸別2)
伊藤 大造 (糸3)

特別活動資金領收

(11月25日現在)

金3,000円

巢山 喜吉 (糸2)

金1,500円

荒井 猛 (糸12)
母袋忠右衛門 (糸23)
土屋 旗孝 (糸15)
荻野 俊一 (糸8)
中田 太郎 (糸7)

金1,200円

戸塚 一 (糸24)
笠原 義人 (糸18)
笠井 義忠 (糸6)

金1,000円

鈴木 正雄 (糸22)
市瀬 武寿 (糸21)
小山 清 (糸11)
安部 和 (糸13)
石原 満洲夫 (糸21)
遠山 了二 (糸28)
二木 典夫 (糸16)
雨宮 金一 (糸17)
井上 一 (糸5)

金900円

金崎 真英 (糸9)
篠田 正信 (糸12)
林 清市 (糸19)
小口 宗久 (糸25)
古越 光明 (糸14)
川上 保人 (糸大1)
岡田 重一 (糸22)
小出 平雄 (糸26)
高木 信 (糸15)

金750円

一之瀬 茂 (糸21)

金700円

松下 紀男 (糸17)

金600円

片山 文一 (糸29)
神崎 聖徳 (糸27)
松岡 浪之助 (糸7)
石永井 勝末 (糸14)
山田 良人 (糸18)
原田 種亀 (旧職)
工藤 見吉 (糸17)
福島 虎 (糸16)
鶴田 定平 (糸1)

金500円

南波 とり (旧教)
相野田 文雄 (糸31)

金300円

柳沢 みや子 (旧教)
浅田 勝夫 (糸31)
坂本 勝三 (糸23)
桜井 周一 (農1)

塩沢 長 (糸大2)

水谷 宏三 (別2)

伊藤 藤大造 (教5)

間山 清美 (化4)

桐生 清義 (糸19)

永井 茂 (糸26)

清水 一郎 (糸大1)

永井 千治 (糸7)

代田 久郎 (化2)

滝沢 甚吾 (糸大1)

伊藤 文男 (糸32)

市瀬 猛文 (農1)

市羽 英尚 (糸30)

松下 加任 (糸5)

榎 二 (糸38)

黒岩 直二 (糸大2)

筒井 忠雄 (糸大1)

清水 悦保 (糸別1)

三城 下治 (糸2)

木下 英信 (農3)

臼田 宏一 (糸大3)

林 隆吉 (糸26)

堀内 吉子 (旧教)

宮下 園子 (糸別4)

久保 禎二 (糸3)

上野 成助 (糸大1)

村山 穂一郎 (糸23)

笠原 市太郎 (糸33)

浅沼 次郎 (糸大1)

渡辺 義人 (糸31)

吉沢 武夫 (糸4)

下野 文徳 (農5)

勝野 貞哉 (糸35)

柳沢 芳成 (糸37)

佐藤 藤一郎 (糸36)

青木 和道 (糸別4)

長谷川 浩三 (糸28)

塚田 征春 (糸3)

金井 英夫 (農2)

井出 村新 (糸大1)

三村 大八郎 (糸32)

酒井 秀二 (化大2)

宮下 篤子 (糸別2)

賀島 淑子 (化大4)

中橋 熊孝 (糸18)

森 千代子 (教13)

伊藤 喜代 (糸10)

尾三富統 (糸38)

島羽 輝男 (糸大3)

湯室 明義 (糸大4)

中牧 康子 (糸別4)

嘉 雄 (糸31)

会費領收

未納会費

金1,200円

林 茂 (糸36)

金1,000円

神林 浩三 (糸4)

金900円

土屋 茂一郎 (糸9)

岡田 重一 (糸22)

金800円

戸塚 一 (糸24)

金600円

渡辺 晋吉 (糸15)

金500円

金野 巖保 (糸12)

金400円

井村 英一 (糸大2)

中島 敬夫 (糸31)

永野 裕一 (糸36)

西沢 元光 (糸32)

荒上 猛 (糸17)

小川 清元 (糸12)

川合 清久 (農2)

上石 睦二郎 (糸19)

春田 正二 (糸29)

北沢 博 (糸31)

齊藤 正博 (農3)

水野 武浩 (化5)

清水 一英 (糸22)

清水 昭一 (糸1)

清水 典二 (糸2)

清水 義朗 (糸34)

谷田 中 (化6)

橋本 甲二 (糸)

古川 英一 (糸4)

深井 正喜 (糸18)

細川 真澄 (農2)

三石 俊雄 (糸18)

水口 義人 (化2)

水出 米雄 (糸28)

水宮 真一 (農1)

宮下 義三 (糸14)

宮城 三至 (糸23)

若村 和夫 (農4)

中宮 村正 (糸21)

川上 正孝 (糸19)

宮崎 孝雄 (農1)

川上 保人 (化大1)

富岡 秀次 (糸16)

坂口 静次 (糸28)

山内 一 (糸23)

金300円

岡田 量雄 (糸25)

金200円

母袋忠右衛門 (糸23)

平林 潔 (糸大3)

柳沢 一郎 (糸27)

松沢 秀二郎 (化大1)

上野 成雄 (糸別3)

住 所 移 動

頁数	氏 名	卒回	新 住 所	234	黒 岩 君 雄	紡14	東洋レイヨン愛媛工場 (伊予郡松前町)
205	猪 原 良 芳	糸22	倉敷レイヨンKK合成製造部 (大阪市北区梅田)	234	関 弥 三	学糸4	酒六株式会社神山工場 (八幡浜市五反田115)
207	木 内 正 美	糸26	鐘紡本部 (大阪市都島区友淵町)	235	三 宅 恒 夫	学幼2	富士紡績三島工場 (愛媛県宇摩郡三島町)
208	高 橋 貞 爾	紡17	東洋紡績KK (大阪市北区堂島浜通2の8)	236	青 木 静 志	糸24	(住) 香川県大川郡長尾町清水
209	西 野 礼	糸33	キングレコード株式会社大阪支店 (大阪市西区西長堀)	241	坪 根 克 彦	糸20	下毛地方事務所
210	林 正 信	紡19	近江絹糸岸和田工場 (岸和田市西大路町)	242	飯 島 千 春	化 7	興国人絹バルブ八代工場 (八代市横手町)
210	花 辰 清 一	紡11	日本紡績検査協会 (大阪市東区内久宝寺町1の25)	242	小 川 保 治	蚕 5	酒六株式会社甲佐工場 (上益城郡甲佐町)
211	柳 沢 柳 二	紡17	兼松羊毛工業KK (大阪市東区淡路町5の32)	243	益 淵 誠 正	糸21	農林省熊本統計調査事務所 (熊本市)
211	安 井 健 一	紡 7	全 上	246	辻 義 男	蚕24	伊佐蚕業指導所 (伊佐郡菱荷町)
212	岡 弘	糸31	和歌山県庁農地部耕地課 (和歌山市)	25	高 木 武 人	学蚕4	岩手県蚕業試験場 (水沢市竜ヶ馬場)
216	竹 下 清	蚕27	兵庫県養蚕販売農協 (養父郡団体事務所)	26	中 島 春 夫	蚕18	昭栄製糸一ノ関工場 (一ノ関市)
217	野 島 忠 義	糸27	鐘紡高砂工場 (兵庫県高砂市)	27	遠 藤 利 治	蚕31	山形県立瑠璃所金峰園所長 (鶴岡市高坂)
218	芦 谷 鉄 郎	蚕33	那星製糸KK (京都府綾部市青野)	81	湯 浅 豊	糸32	関本製作所 (渋谷区宇田川町36)
221	望 月 英 明	紡23	大和紡績・舞鶴工場 (舞鶴市字高野由里)	31	小 野 昭 夫	蚕35	片倉工業株式会社郡山製糸所 (郡山市字田中三人)
221	渡 辺 敬 一郎	糸30	那星・本社製糸試験所 (京都府綾部市)	31	小 林 次 郎	蚕32	昭栄製糸福島蚕種製造所 (伊達郡保原町)
222	荒 井 汪 人	蚕37	日本レイヨン米子製糸工場 (鳥取県米子市)	32	武 井 登	糸30	片倉工業平製糸所 (平市三倉8)
222	貞 松 広 四郎	蚕35	那星製糸鳥取乾繭場 (鳥取市富安)	34	冬 泉 清	糸26	日東紡福島工場 (福島市大字郷)
223	小笠原 喜代三	糸 8	浜田鐘詰KK (浜田市高田町)	34	柳 沢 普	蚕37	昭栄製糸福島工場 (福島市大田)
223	酒 井 嘉 美	蚕17	片倉工業松江製糸所 (松江市東朝日町)	35	小 口 良 人	農 1	茨木亜麻産業株式会社 (下妻市)
224	秋 山 武 一郎	糸19	那星製糸津山工場 (津山市二宮)	35	楠 山 貢	学糸3	須藤製糸株式会社 (古河市麻町)
224	磯 部 英 一	糸17	日本レイヨン高梁工場 (高梁市松山)	36	竹 内 正 司	糸20	須藤製糸株式会社本部工場長 (古河市)
227	一ノ田 巧 三	糸29	呉市西竜川町175	36	田 代 毅	糸27	鐘紡結城工場工務課 (茨木県結城市)
227	城 口 俊 明	蚕27	履物問屋 (呉市東雲町2の4)	37	手 塚 輝 男	学蚕2	茨城県地方蚕業指導所
228	羽 場 清 人	紡学3	三菱レイヨン・大竹工場 (大竹市小方)	37	花 里 省 子	糸別2	須藤製糸株式会社本部工場 (古河市)
229	尼 木 紹 雄	糸29	下関厚生病院 (下関市上新地町)	38	飯 島 祐 介	学蚕2	蚕種協同組合千曲社高崎出張所
231	天 野 武 郎	7	自営 (住) 徳島県美馬郡岩倉町	39	小 川 正 夫		昭栄製糸小山工場 (小山市稲葉郷)
232	合 津 清	糸35	片倉工業鴨島製糸所 (麻植郡鴨島町)	42	大 熊 康 代	蚕13	吾妻蚕業技術指導所長 (吾妻郡中ノ条)
232	華 岡 弥 治郎	糸10	自営 (住) 徳取県三好郡池田町	42	恩 田 有 昭	蚕事	新田蚕業技術指導所 (新田郡尾島町)
232	宮 原 秀 人	糸19	片倉工業鴨島製糸所 (麻植郡鴨島町)	43	唐 木 革 江	教 7	日本レーヨン株式会社桐生工場 (桐生市広沢町)
232	矢 島 卓 也	学糸1	徳島県蘭検定所	44	小 池 滙	学蚕1	群馬県前橋市勢多農林高校

編 集 後 記

◆ 会報はその会の盛衰を物語る一つの大きなバロメーターであると考えられます。先に行われた同窓精神昂揚運動の甲斐があり本会も次第に活潑となつて来ました。そして、本誌に対する投稿も最近次第に数をましつある事は誠にうれしい事です。

過去 2~3 年をふりかえつてみますと本誌も除々にあるが著しい進歩の跡がみられます。しかし、まだまだとても軌道にのつたなどとはいえません。これからが大切で、より一層の努力をそそがねばならないと思います。

年頭に当り、本年も会員の皆さんの、より一層の御支援と御協力とを編集部一同切にお願いする次第です。

◆ 先月号は休刊のため、寄せられた原稿も比較的にかつた。これら御投稿の皆さんには厚く謝意を表します。

◆ 住所移動・会費領収等の掲載がおくれたため種々不便をお掛けした話を時折耳にします。これがため、なるべく多く載せるように限られた紙面を相当に苦心しましたが、なお多くの未掲載分が出てしまいました。何卒悪しからず。

◆ 年賀挨拶の掲載は、本年は紙面の都合上中止する予定でしたが、その筋のお達し(?)により載せる事にしました。これがため公平を欠くきらいがあつた事を遺憾とします。この次の時には予め募集公啓をするようにしたいものです。

◆ 2月号から一部編集部員の交替が行われる事になりました。4~5年の長い間、そして苦難の多かつた編集時期に担当されて、本誌を今日のように盛り上げてくださつた誌氏に対し厚く感謝の意を表します。(編集担当員かく)

編集理事 田口亮平、総務 小山良男、部員 石川今井甲子男 土屋幾雄 中原 武 田中茂光 西村美次、木藤半平 古平福紀